

第3学年1組 総合的な学習時間 学習指導案

2026年1月22日（木）5校時

児童数 28名

指導者 澤田 強志

1 単元名 君の努力が地球をすくう！？デカボでチャレンジ！！大作戦

～命があぶないから二酸化炭素をへらそう～

2 授業づくりの視点

- 本学級の児童は、素直で、こちらから学習内容を提示すると、意欲を持って取り組むことができる児童が多い。しかし全体の場では間違いを恐れ、発言できない児童もいる。そのため特別活動や教科等の学習では、自分の思いを話すことを大切にしてきた。自分から举手して発表する児童は増えてきたが、答えのない発問や問い合わせに対して、まだ自信がない児童がいる。授業の中で、できるだけペアやグループで交流する時間を取り、一人一人が自分の思いを話すことができる学級づくりに努めている。
- 特別活動と総合的な学習の時間は、互いに影響し合い、児童の学びを深める往還的な関係にある。特別活動、特に学級活動(1)では、児童の願いや思いを起点として「どのように実現するか」を話し合い、計画し、実践へつなげる。一方、総合的な学習の時間では、児童の「やりたい」「調べたい」という思いから問い合わせ立て、探究の計画を構想するという共通したプロセスが見られる。特別活動の学級活動(1)話し合いは実践と結びつくため、児童が自分事として捉えやすく主体性を發揮しやすい。それに対し、総合的な学習の時間では調べ学習や発表で完結し、社会への実践につながりにくい場合がある。そのため、児童の内発的動機に基づいた学習過程を意図的に構成し、主体的な関わりを引き出すことが重要となる。児童自身が意思決定や合意形成に関わることで、課題解決に向けて社会とつながる学びが生まれる。12月のH20リティリングおよびアースハックの2つの企業による「デカボ（脱炭素につながる行動）」の出前授業では、脱炭素の取組が地球環境の保全につながることを理解した。そのうえで、「より多くの人にデカボに取り組んでもらうにはどうすればよいか」という課題意識をもち、話し合いながら活動の計画を立てた。単元のまとめとして、地域の方に発信する機会を予定している。更に発信後にデカボに取り組んだ人数をアンケートで調査することで、学習の成果を数値化して捉えることを目指している。児童自身が社会に向けて発信する経験を通して、自分たちの行動が社会に貢献しているという実感をもつことが期待される。
- 本単元では、地球温暖化という大きな課題を、児童一人一人が自分事として捉え、地域に伝えたい内容と方法を話し合い、合意形成していく。そのため、単元の導入では、地球温暖化が進行することで生活や生命にどのような影響が及ぶのかを学び、「このままではいけない」という危機感をもたせる。そこから「自分たちにできることは何か」を全員が考えられるようにしていく。単元のまとめとして、二酸化炭素を減らすための取り組みを地域に発信する。より多くの人にデカボ（脱炭素につながる行動）に取り組んでもらうために、何をどのような方法で伝えるかについて話し合い、児童自身が表現方法を選択できるようにする。

本時では、まず前時までの学習を想起し、地球温暖化に対する危機感について共有する時間を設定する。そして授業の進行を児童に任せる場面を設けることで、学習への主体性を高める。事前に司会役の児童と、本時のめあて、予想される意見を共有し、授業の見通しをもたせておく。また、発言の偏りが見られた場合には、意見を述べていない児童に声をかけるなど、より多くの児童の意見が出るような手立てを司会に伝えておく。「比べる」「見つける」では、意見の背景にある理由にも注目させる。二酸化炭素を減らすために、どのような内容を伝えたいのかについて、友だちと自分の考えの共通点や相違点に気付かせる。それらを分類して整理することで、伝えたいテーマについて互いの考え方をより深く理解できるようにする。

3 単元の評価規準（総合的な学習の時間）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より多くの人にデカボに取り組んでもらうことが地球温暖化を抑えることにつながることを理解している。	今まで学習したことと関連づけながら二酸化炭素を減らすことについて考え、発信している。	学習したことを元に、自分なりに探求したい理由を持ち、伝えたい内容について考えようとしている。

4 本時のねらい

- より多くの人にデカボに取り組んでもらうために、どのような内容を伝えたいか今までの学習と関連付けながら考えを話すことができる。
- 友達の意見を比べ、同じ意見や違う意見を分類し、伝えたい内容をみんなで決めることができる。

5 本時の展開（6時間目/全14時間）

学習活動	指導上の留意点	評価規準と方法
1 つかむ ○前時に取り組んだことを確認する。	○発表会では5～6つの内容に分かれて発表することを確認する。 ○事前に考えていたワークを見るように促す	【主】 自分なりに危機感や問題意識をもって、考えようとしている。 (発言)
より多くの人にデカボに取り組んでもらうために、みんなに伝えたい内ようを考えよう。		
児童に司会・黒板記録を担当させる		【知・技】 二酸化炭素を減らすことにつながる取り組みを理解している。 (発言)
2 さぐる 自分の伝えたい内容を価値づけて発表する。 <u>意見を短冊に書いていく</u> ・ 地球の温暖化 ・ コンポスト作り ・ ミツバチの減少 ・ 食品ロスを減らすには ・ リサイクルをする ・ デカボの紹介	☆できるだけ多くの児童が発言できるように司会と進行の仕方を確認しておく。 ○これまでの学習と関連づけて発言するように促す。	
3 比べる 見つける 同じ意見、違う意見を全員に確認しながら分類して、整理していく	☆分類の観点(似ている、共通している)を伝え、司会で一度整理する時間を取りるようにする。 ☆意見を言う際には、理由を添えるように促す。	【思・判・表】 地球を救うための作戦として何を世の中に伝えていくかを考え、表現している。 (発言)
4 まとめる 仲間分けしたまとめを元に5～6つのテーマに決める。	☆みんなの願いや思いが入るように伝えたいことを決めるように促す。	【主】 互いの良さを活かしながら、探求的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。(発言、ふり返り)
5 ふり返る ふり返りを書く		

(☆印を特別活動との往還と捉えている。)